

# 2024年（令和6年）度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学



## 「はじめに」

学園を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面を迎えています。18歳人口の本格的な減少による大学淘汰の本格化など、大学間の競争が激しくなる中、どの私立大学・短期大学でも、自律的なガバナンスの確保、経営の強化等、より強固な経営基盤に支えられた大学づくりを進めています。また、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などに懸命な対策が執られています。

教育を取り巻く環境が激変する中、本学園の長所を活かした教育・研究活動を積極的に展開し、それらの特色を広く社会に発信することで、地域・社会に求められる学園像をより明確に打ち出し、本学の存在意義をさらに確立させることで、2027年度に迎える学園創立80周年さらには100周年につながるよう、学園の運営にあたります。

学校法人 京都外国語大学  
京都外国語大学  
京都外国語短期大学  
京都外大西高等学校  
京都外国語専門学校

# 目 次

はじめに	1
<b>I.学校法人京都外国語大学事業計画</b>	<b>2</b>
1.基本方針	
2.財政基本方針	
3.重点取組	
<b>II.京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画</b>	<b>4</b>
1.大学・短期大学のビジョン	
2.学長方針	
3.早急に取り組む課題	
4.事業計画	
<b>III.京都外大西高等学校事業計画</b>	<b>9</b>
1.高校のビジョン	
2.方針	
3.最重点取組	
<b>IV.京都外国語専門学校事業計画</b>	<b>12</b>
1.専門学校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
<b>(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的</b>	
.....	<b>14</b>



## I. 学校法人京都外国語大学事業計画

### 1. 基本方針

本学園の将来構想として、安心・安全の学園づくりのため、学園の主要施設の整備を最重要課題とし、これを中核に据えた「学園 100 年プラン基本構想」を 2020 年 3 月に策定した。

このプランは、「環境整備基本方針」、「財政・予算編成基本方針」、「教育・研究基本方針」からなっており、各方針における中期的な計画に基づき、年度ごとの計画を実施することとしている。

### 2. 財政基本方針

- ・ 学園 100 年プラン基本構想に基づき策定した「中期財務計画」における重点課題と対策の年度予算への落とし込みを行う。
- ・ 中期的な学園整備に向けた財務体質の改善のため、「入るを量りて出ざるを制す」を基本として、収支バランスを維持する。

### 3. 重点取組

#### （1）改正私立学校法への対応

2025 年 4 月に改正・施行される私立学校法は、私立学校が社会から信頼され、一層発展していくため、その要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進することを目的に、改正の検討が行われてきた。

今回の改正では、理事、監事、評議員及び会計監査人の就任要件のほか、理事会及び評議員会の職務や運営等の、学校法人の管理運営制度などが規定される。

2024 年度は、寄附行為の認可申請、関連規程の整備、改正私学法に対応した内部統制システムの構築などの対応を進める。

#### （2）学園中期計画「学園 100 年プラン基本構想」の見直し

令和元年改正の私立学校法では、大学・短期大学の中期計画は認証評価の結果を踏まえて策定することとされている。また、2020 年 3 月の「学園 100 年プラン基本構想」の策定以後、第 3 期 5 カ年計画の策定、学園環境整備基本方針に基づく「学校法人京都外国語大学 マスタープラン」の策定など、適宜、計画が進行していることから、2023 年度に受審した大学の認証評価結果及び事業の進捗状況を反映させ、「学園 100 年プラン基本構想」の見直しを行う。



（3）寄附金制度の充実など外部資金確保のための具体的取組の実施

私立大学等を取り巻く経営環境が大変厳しい状況にある中、各法人では安定した経営基盤の強化が求められ、中でも収入の多元化の重要性が増している。

収入の多元化の一つである寄附金の獲得は、経営情報を共有したうえで、法人の関係者が一丸となって、継続的に取組を行う必要がある。

2024年度は、寄付者への顕彰制度の見直しなどによる既存の寄附金制度の充実など、外部資金確保のための取組を行う。

（4）学園広報誌リニューアルによる体制整備

1990年の創刊以降、学園通信「LOGOS」では、学園の教育・研究並びに学生・生徒の正課・課外活動などを広くステークホルダーに発信している。

学園広報業務が大学入試広報部から法人部へ移管されることに伴い、学園通信の発行は、「学園と卒業生とのつながりを強化し、卒業生の愛校心を育む」、「卒業生の活躍、経験を現役学生や他の卒業生に伝えることでネットワーキングの機会を提供する」などが目的であることを再度念頭に置き、紙面のリニューアルや体制整備を行う。

（5）働き方改革の推進

働き方改革の一環として、教職員一人ひとりがオンとオフのメリハリをつけ、ワークライフバランスを考えて働くことができる環境を整える。まずは、個々の労働時間、休暇取得状況を可視化することで、過剰な時間外勤務及び振替休日未取得を抑制する。

（6）人事戦略の策定

事務職員の年齢バランスを考えながら10年先を見据え、キャリア採用を含む採用計画を策定する。

また、各部署の業務スキルに合わせた人員配置をするため、業務に必要なスキルを身につけられる研修制度を充実させ、人材育成を行う。



## Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

### 1. 大学・短期大学のビジョン

#### (1) ミッション

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及びその背景にある国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、以下の3つの力を備えた人材を育成する。

##### ① 京都外国語大学

1. 学問に裏付けられた実践的な複言語運用力
2. 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

##### ② 京都外国語短期大学

1. 確かな日本語力と実践的な英語運用力
2. 世界平和のための社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

#### (2) 目的

##### ① 京都外国語大学

学術の中心として広く知識を授け、豊かな教養に基づく円満な人格と国際的視野とを養い、専門の外国語とその文化について深く教授研究し、国際的活動を通して社会に貢献し得る人材を育成する。

##### ② 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

##### ③ 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいえるべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。



これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾14頁以降参照。

## 2.学長方針

### 壁を突破し、新しいつながりを創出

創立百周年を見据え、建学の精神「Pax Mundi Per Linguas – 言語を通して世界の平和を –」を時代に即したメッセージへ再定義しつつ、理念体系を再定置し、本学の建学の精神を体現する人材を育成し続けることが求められる。そのためには、複雑な社会変動に適応進化するための人材育成に資する「教学体制」と、これを支える自律的な「組織体制」の両輪の整備が必要となり、独自性のある経営体制の確立に向け変化にチャレンジする必要がある。

「伝統創出への新たな創造」に向け、2024年度から第3期5カ年計画を始動する。その運営方針となるのが、本学の建学の精神を未来への持続発展に向けて再解釈したブランドビジョン『「異なる」を愛せる世界をつくる』に基づいた基本運営方針「壁を突破し、新しいつながりを創出」である。学内のインナーコミュニケーションを活性化し、様々な障壁を克服し、教職員が『自分事』として大学の将来を考える意識を高める。それにより質の高い業務を創造し、教職員が一丸となって地元である京都及び海外との交流を最大化させていく。

## 3.早急に取り組む課題

### （1）高度な英語ディベート力

新カリキュラムの演習科目・検定の活用に注目しつつ、全学部学科の学生が初年度に学ぶ共通科目の分野（9分野）で、英語でディベートが出来るよう、工夫を検討

### （2）複数外国語が学べる強み

新カリキュラムの演習科目・検定の活用に注目しつつ、学生が複数言語を選択し易い工夫と本学独自の二言語同時学習が普及・拡大するよう、検討

### （3）卒業後の進路（就職・進学）の明示

学部学科毎の進路実績と活躍中の先輩の把握と利用、新カリキュラムの展開による門戸拡大の検討



（４）若手人口減の中でのリカレント教育

実施中の生涯学習講座を含め、社会人教育需要の把握と本学園における実施形態の検討

（５）大学・高校・専門学校の交流

学園の魅力づくりの観点から、西高校及び外国語専門学校の（編）入学拡大に必要な対策の検討

（６）元気な学園づくり

図書館・ランゲージセンター等充実した自修学修施策に加えて、「もっと京都プロジェクト」により、留学生と共同の課外活動、要望に役立つリーフレット・通訳・翻訳等の地域貢献活動の展開により、明るく元気な大学風土の醸成を検討

#### 4.事業計画

2024 年度は第 3 期 5 力年計画の始動にあたり、第 3 期 5 力年計画の 4 つの活動指針及び自己点検・評価の結果に基づく計画を重点事業と定め、部署・学部を越えて新たなつながりを創出していく。

<b>【第 3 期 5 力年計画の 4 つの活動指針に基づく重点事業】</b>
<p><b>I. ブランドビジョンの浸透と活動</b></p> <p>京都外国語大学・短期大学ブランドの確立と学内への周知徹底の仕組み(インナーコミュニケーション)及び学内外への総合的な広報戦略に基づく実施体制の確立</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生・卒業生・教職員・地域社会を巻き込んだブランディング活動の推進及び学内外すべての施策へのブランドビジョンの浸透</li> <li>● 学生生活の総合的な満足度向上</li> <li>● 学生対応の見直し・学生支援の充実</li> <li>● 入試広報部と部署・学部との連携強化による入学定員の安定的確保</li> <li>● 大学院生の研究支援</li> <li>● 卒業生と在学生をつなぐ就職支援の強化</li> <li>● WCN 活動の推進・動画コンテンツの充実</li> <li>● 京都外国語大学・短期大学の教育研究を支える教育環境の充実</li> <li>● 建学の精神に基づく活動の支援・発信</li> </ul>
<p><b>II. 京都とのつながりの再構築（京の輪と世界の和）</b></p> <p>ステークホルダーとしての京都と敬意をもって向き合い、京都と世界をつなぐハブになることについての戦略的立案と運用方法の確立</p>





- 京都関連授業の開発・整備
- コミュニティ通訳に係る実践学生コミュニティ作りとその運用
- 世界の大学・地域のハブとなる情報発信
- 産官学連携の強化
- 生涯学習講座による地域社会（京都）への語学を通じた貢献

### Ⅲ. 京都外国語大学・短期大学『教育』モデルの構築

科学的思考に基づく「複言語・複文化主義」、「多文化共生実現力」を確実に修得するための教育コンテンツ開発と運用体制の構築

- COIL（遠隔協働）学習を取り入れたプログラムの拡充のための環境整備
- CEFR に連動したスコア型の新たなロシア語検定試験の開発
- DX 社会適合人材育成のための全学教育コンテンツの開発および実習室整備の本格化
- 多文化共生実現力をつけるための機会創出
- 建学の精神に基づく人材育成のための初年次教育の更なる充実
- 入口から出口に至るまでの説得力ある教育プロセスの明瞭化・履修モデルの作成
- キャリアセンターと学科の連携による初年次からのキャリア教育の強化
- 学生のニーズに合わせた留学制度の再構築と体系的な留学指導の実施
- カリキュラム改定後の学修成果の検証と満足度の追求
- 2025 年度大学院新カリキュラム始動に向けての準備
- 『教育モデル』構築のための専任教員の専門分野の精査
- 基幹教員制度の構築

### Ⅳ. 業務の効率化（DX 化による組織設計と運用）

自分たちが取り組むべき必要な業務の洗い直しとそれを効率的に実行するための組織の再設計による DX 推進体制の確立

- 論理的かつ効率的な入試広報戦略
- 大学運営における資源配分の最適化
- 広報等印刷物の削減・HP の更なる充実
- 学生支援を強化・深化させるための奨学金業務のアウトソーシング化
- 図書館の電子リソース資料の充実
- ICT サポートページのリニューアル
- 会議のペーパーレス化の更なる推進

### 【自己点検・評価の結果（重要課題）に基づく重点事業】

- 事業計画の実行力向上
- 「もっと京都プロジェクト」の本格稼働



- 電子書籍や電子ジャーナルのさらなる拡充

### 【重点事業以外の独自取組】

- 短期大学機関別認証評価受審と外部評価委員の拡充
- FD 活動の充実
- 国際文化資料館運営業務の委託
- 危機管理マニュアル作成のための調査
- 中国語学科創設 50 周年記念／イタリア語学科創設 20 周年行事
- 全国ロシア語圏プレゼンテーション大会の開催



## Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

### 1. 高校のビジョン

#### 「不撓不屈」の精神に則った総合的人間育成

学問を愛好し、道義を重んじ、「未来を拓く力」と「世界に向けて自分を表現できる力」を養い、「不撓不屈」の建学の精神に満ちた有能な人材を育成して国家社会の進歩発展に貢献することを目的とする。

また、本校は、建学精神のもと、「強く、正しく、明るく」を校訓に、京都外国語大学の併設校として、京都外国語専門学校とともに世界に羽ばたく国際感覚豊かな人材の育成に努める。明るくのびのびとした校風の中で「自分にしかできないもの」を求めて個性を磨きかけるように指導することを目的とする。

### 2. 方針

#### 「不易と改革」をもって、本校の教育を推進する。

本年度は全学年における新学習指導要領の運用に当たり、新しい学力観に基づいた授業、特別活動、部活動を展開し、京都外国語大学の併設校としての特色を一層発揮しつつ、京都外国語大学に生徒を送り出す使命と自負を持って、引き続き「グローバル化教育」「語学教育」を優先して教育を行う。大学が求める学力育成に当たることはもちろん、生徒自身の大学での学びの自覚および志向する志望学部の決定のための高大連携を深め、連携事業を密に展開し、双方により実効性のあるものとしていく。また、京都外国語大学希望生徒だけでなく、他大学志望生徒の学力向上を図るためにも、より一層活発な教職員間の議論・情報共有を行い、教育・生徒指導力の向上を図ることで、教育の質の向上を目指す。先を見据えた少子化対策の研究を推進するとともに教育DXを推進する。「心理的安全性」のある学校風土づくりを推進する。



### 3. 最重点取組

#### （1）高等学校創立65周年記念事業「京都外大西高等学校校舎・体育館耐震整備計画（旧校舎解体）」の推進

高等学校が大事にすべきものは何か、これからの生徒が育っていく空間としてどのようなものがふさわしいのか検討を行い、以下の①②を第一に使いやすさや生活空間としての快適さも十分に考慮し、生徒たちが学校で過ごす時間を楽しいと思い笑顔があふれ、何十年も使い続けることができる校舎等とするために、校舎内を創立以来初めての二足制を導入し、2023年9月30日に竣工した。2024年度は、耐震整備計画の最終年度として、旧校舎の解体工事を行う。

- ①生徒及び教職員にとって自然災害時や新型コロナウイルス等の感染症拡大予防に対応できる教室の広さや換気設備を有する安心・安全な設備・建物であること。
- ②2022年度入学生からの教育課程改訂に伴い、生徒達がパソコン・タブレット等を使用したICT化授業に対応できるWi-Fi環境やプロジェクター等の整備がされていること。

#### （2）教育に関すること

##### ア 進学指導の強化

2022年度入学生から学習指導要領改訂に伴いカリキュラム改訂を実施したが、一層のカリキュラム充実を目指し、検証及び検討を続け2025年度入学生からの進学指導に特化したカリキュラム改訂を目指す。

併せて、グローバル特進の生徒を中心に、校内予備校の無償化を図り、受験に関するより高いレベルの学習環境を生徒に保証する。また、フォローアップ講座を推進する。本校教員の指導力向上のために、授業研修や授業見学等を促進する。この取組は募集活動をする上で、本校のひとつの特徴として、入学生確保に結実するものである。

また、2022年度から新たに取組を始めた各教科ごとでの「学力向上（教科力向上）のための教科目標」にて各コース毎に課題点・数値目標・取組



次年度末での成果及び課題を確認させる事により教科内での意識等の統一及び次年度に向けて改善を図ることにより、教員の資質向上を目指す。

#### イ 教育DXの推進及び導入

2022年度入学生からタブレットの購入を必須とし、従来の授業形態にとらわれずにタブレット・プロジェクター等を使用した授業を中心とし、①わかりやすい授業②学習の効率化③校務の効率化④個別学習・協働学習⑤情報活用能力のメリットを上げ、学習意欲や集中力アップ・学習効果の向上を目指す。また、自然災害や感染症による長期休校の状況に備えて、オンライン授業の充実だけでなく、土日祝日や長期休暇中の進学対策や学力低下生徒への学力向上を図ることにもつなげる。（教育DX）

その他、地方公共団体や海外の姉妹・交流校並びに模擬国連参加校とのインターネットによるネットワーク構成やイントラネット等の研究を進め、本校が中心となって国内や世界に発信できる力を育成する。

#### ウ 先を見据えた「少子化対策」の研究の推進

### (3) 学校運営に関すること

#### ア 不易と改革、見える化の推進、ボトムアップ

#### イ 教職員の働き方改革（校務DX）

(2)イでの教育DXの推進及び導入に記載しているように、2022年度から年次で生徒たちがタブレットを使用した授業を始めているため、学校内施設整備の環境整備が進んでいる。特に2022年度から教務・入試・進路・保健室・事務、それぞれが別々のシステムやソフトで管理していた生徒情報の一元化を図り、システムの利便性を高めることにより、会議や処理時間の軽減を図った。2024年度は教育DXをさらに進めていくために研修を実施し、一層の業務IT化を推し進めていく。これにより、教科研究及び生徒指導の時間が増加し、教育・生徒指導力の向上が見込まれる。



## Ⅳ. 京都外国語専門学校事業計画

### 1. 専門学校のビジョン

本校は1998年より「アジアを学ぶ」をテーマに、学校法人京都外国語大学のグループ校として建学の精神「言語を通して世界の平和を」のもと、多くの学生を送り出してきた。しかし、少子化による大学全入時代の影響を受け、専門学校への進学率は年々減少している。このような現状を鑑みながら本校も「語学の専門学校から語学を通じて社会の課題に対応する専門学校」へと変化し国際的感覚を持ち且つダイバーシティに対応できる人材を育成していく。

### 2. 方針

- (1) 18歳人口減少期においても、安定的な学生確保が可能な専門学校を目指す。
  - ・語学力だけでなく、社会の課題に対応できる人材の育成
  - ・学科ラインナップの再構築、それに伴う授業カリキュラムの見直し。
- (2) 定員の確保と経費節減を図り、収支状況の改善に取り組む。
  - ・入学定員の見直し、学科の再編
  - ・授業コマ数の見直しと教員数の見直し(中期的)
- (3) 学生募集・進路については、高校・大学と連携し学校法人全体で活動を行う。
  - ・大学との連携については、すでに実施しているが高校訪問やガイダンスでの大学への誘導の更なる強化。
  - ・高校との連携については、進路担当教員と連携し本校への進学誘導の更なる強化。
  - ・専門学校としては、京都外大への進学(編入学)の更なる強化、特に国際貢献学部への編入学。

### 3. 重点取組

- (1) 学科・カリキュラム(教育課程)の再構築

本校の特徴は「英語」だけでなく多くの「アジアの諸言語」を学べることである。これまでもアジア諸国と日本の架け橋となる人材を輩出してきた。しかし社会情勢の変化やダイバーシティの促進等、高校生ニーズ(保護者も含め)に即した専門学校に再構築する。

外国語専門学校として「語学」の基軸は残しながら、選ばれる専門学校として時代のニーズも取り入れた学科構成の変更や教育課程の見直しを継続的におこないカリキュラム変更も含めおこなう。



## （2）学生の安定的確保に向けた募集広報活動の強化

### ・広報活動の強化

これまでの紙媒体による広報活動を減らし、SNSを活用したリスティング広報活動を強化し、また本校の学科特性や本校への入学者の地域分布を再度検討し高校内でのガイダンスや説明会への参加を増やし、受験生との接触や高校訪問等を積極的におこない、本校の認知度アップや学校見学会参加につなげる。

### ・学校見学会の見直し

タイムテーブル等の形態はこれまでを踏襲するが、実施時期によって柔軟に内容を変更し、それぞれの開催実施時期に参加する受験生のニーズに寄り添った見学会にすることで、出願につなげる。

### ・大学と連携した海外での留学生募集活動

18歳人口減少が進む中、留学生の獲得は学校運営において必須となる。ただし、2024年度はコロナ禍からの影響により、国内在住の留学生が底になるため、海外での募集活動をおこなう。

また、募集活動は専門学校が単独で実施するのではなく、大学院・大学・専門学校とグループ全体でおこなうことで経費の削減も可能となる。

### ・新規入学選考方法の導入

昨年度は英米語学科と韓国・朝鮮語学科に限定しておこなったAO型選考の実施を他学科にも広げ、入学後のミスマッチを少しでも減少させ、中途退学者を減らす。

## （3）卒業後の進路の更なる強化

現在の方法を踏襲しながら、様々な事情の学生がいるためよりきめ細やかな進路指導を実施する。

・入学前教育を導入し、入学前に個々の特性を把握し、授業や学生生活の参考とし、指導に活かし進路指導につなげる。この取り組みを広報活動に活かし、学生に寄り添う専門学校のアピールにつなげる。

・必ず「その時間・その場所」に行けば相談が可能な寺小屋的なスペースの設置。

・学生相談室と連携し、それぞれの学生の特性を把握しながら進路指導を実施する。



## 3つのポリシー

<b>京都外国語大学</b>
<b>外国語学部</b>
<b>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</b>
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、「高度な語学力」、「社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力」、「京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力」の3つのミッションを修得することにより、下記に示すとおり、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を育成することを教育目標にしている。</p> <p>① 構想するために必要な力 私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力 自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 共同するために必要な力 立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
<b>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</b>
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】</p> <p>① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。外部の語学検定試験や学科総合試験によって、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策やキャリアと関連する専攻語の4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。（日本語学科を除く）</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域が抱える諸問題に問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p>





- ② 必修科目における専攻語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果】

① 語学力の育成

大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。

② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力

専攻語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成する。

③ 世界が抱える諸問題の理解

専攻語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア（日本語学科を除く）
- ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

【教育内容（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

- ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 2年次からの英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の高いレベルの4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。英語圏の専門留学に必要な IELTS 又は TOEFL のスコアのレベルに到達することができる。
- ③ 2年次からの専門科目では、実社会で求められる社会科学の素養を修得するための必修科目として、「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を、英語又は日本語を教授言語として学ぶ。これらの素養は、専門留学を円滑かつ効果的に修了するために必須となる。
- ④ 「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにし、京都と世界をつなぐネットワークの一員となる素養を磨く。
- ⑤ 卒業後の進路を見据え、地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格等を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共働するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 2年次からの必修科目における英語の修得にあたっては、留学に必要な英語力獲得を目指す高度かつ実践的な英語教育を徹底する。また、卒業後の進路を見据え、実社会で必要とされる社会科学の「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を修得する。また、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。
- ③ 「京都学」では、「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにする。
- ④ 3年次秋学期から1年間、海外協定校（英語圏）への専門留学を必須とする。
- ⑤ 留学前後では、産・官・学それぞれの現場で活躍する講師を迎え、国際社会の中で求められる日本のあり方を俯瞰する姿勢を確立する。その上で京都と世界をつなぐネットワークの一員という認識の下、それぞれのキャリアで求められる素養を自律的に考え続ける能力を身につける。
- ⑥ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【評価（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。



<p>各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は <a href="https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html">https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html</a> に掲載。</p>
<p><b>アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）</b></p>
<p>本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。</p> <p>【求める学生像】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① グローバル化する社会において「言語を通して世界の平和を」を具現化できる人</li> <li>② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人</li> <li>③ 京都を中心とした自国の社会と文化や諸外国の社会と文化に興味や関心を持っている人</li> <li>④ 多様な文化間のマネジメントができる人</li> </ol>

<p style="text-align: center;"><b>京都外国語大学</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>国際貢献学部</b></p>
<p><b>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</b></p>
<p>国際貢献学部は、社会科学の理論と実践の学修をとおして、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、①社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力、②社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力、③京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力の3つのミッションを修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる素地を持った人材を育成することを教育目標としている。</p>
<p><b>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</b></p>
<p>国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、学部基幹科目及び専門科目に加えて9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成している。</p> <p>【教育内容（グローバルスタディーズ学科）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する人類的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎及び「コミュニティエンゲージメント（地域社会との関わり）」を修得する。</li> <li>② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得する。選択科目では、卒業後の進路を見据えた3つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得に努める。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。</li> <li>③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく</li> </ol>



多様性を養う。

- ④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台上で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができる。

【教育方法（グローバルスタディーズ学科）】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。  
② 多文化環境の下で学び、複文化主義を体現したコミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行う。  
③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果（グローバルスタディーズ学科）】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力  
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。  
② 問題発見力・解決力  
グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と科学的洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができる。  
③ 多文化共生実現力  
複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができる。  
④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用  
経済学、経営学、国際関係学といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができる。

【評価（グローバルスタディーズ学科）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績  
② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

【教育内容（グローバル観光学科）】

- ① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する人類学的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を修得する。  
② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得する。展開科目では、学際的な観光学の幅広い素養を育みつつ、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを可能とする。選択科目では、世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について科学的に学ぶことができる。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。  
③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養う。  
④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台上で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができる。

【教育方法（グローバル観光学科）】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。  
② 「PAX MUNDI（世界の平和）」を支える多文化共生のための観光にたいして、科学としての観光学の視点からの教育を行う。また、京都全体をキャンパスとすることで、複文化主義の基盤となる日本を正しく理解するための教育を行う。  
③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果（グローバル観光学科）】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力  
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。



<p>② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができる。</p> <p>③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができる。</p> <p>④ 世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができる。</p> <p>【評価（グローバルスタディーズ学科）】 卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。</p> <p>① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告</p> <p>各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は <a href="https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_ge_mission.html">https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_ge_mission.html</a> に掲載。</p>
---

<p><b>アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）</b></p>
<p>本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会が直面する諸問題の解決に関心を持ち、世界標準の社会科学の理論と実践、デジタル技術、外国語運用力、そして、それらを活かすための幅広い教養を身につけ、多文化が共生する持続可能な「世界の平和」の実現に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。</p> <p>グローバルスタディーズ学科 【求める学生像】</p> <p>① 持続可能な「世界の平和」を科学の立場から具現化できる人 ② 京都のみならず、世界各地の多様性を体現し、国際的な多文化共生に対する学びの意欲を持つ人 ③ 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人 ④ 何事にも主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人 ⑤ 大規模な肯定的変化を創造する能力を持ち、自らを「チェンジメーカー」とみなす人</p> <p>グローバル観光学科 【求める学生像】</p> <p>① 持続可能な「世界の平和」を支える観光という活動を、科学の立場から具現化できる人 ② 京都が体現する多様性から、多文化との共生を学ぶ意欲のある人 ③ 観光をとおして、コミュニティが直面する課題への科学的かつ実践的な解決策を立案することに興味や関心を持っている人 ④ 何事にも主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人</p>

<p><b>京都外国語大学</b></p>
<p><b>大学院外国語研究科</b></p>
<p><b>ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）</b></p>



外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語・文化・観光の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論・観光文化の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

### アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

## 京都外国語短期大学

### キャリア英語科

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、語学力に加えて、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

- ① 構想するために必要な力

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。

- ② 実践するために必要な力

自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計



画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。

③ 共同するために必要な力

立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者ととも実現していく（多文化共生力）ことができる。

**カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）**

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、総合科目及び専門科目に加えて、教養科目など必要とする科目を体系的に編成している。

【教育内容】

- ① 学修の基礎となる総合教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に外部試験を受検し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治、経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成する。「Graduation Project II」では身につけた内容を英語で発表し、意見を交換する機会を持つ。

【教育方法】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

- ① 語学力の育成  
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力  
英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、自らの社会と文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解  
英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人



- ③ 自国を含め諸外国の社会と文化に興味や関心を持っている人
- ④ 多様な文化間のマネジメントに興味や関心を持っている人
- ⑤ 学力を活かして4年制大学に編入学を望む人
- ⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人



## 【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。 【ダイヤモンドコース】 実社会が求める、専攻語として英語の高度な運用力と社会科学の素養を備えた「京都」の精神の継承者として日本と世界をつなぐ存在となり、世界が直面する諸課題に対して、学問に裏付けられた解決策を自律的に立案し、他者と共同して社会実装を達成する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発信・伝達する力を備え





		た国語教師、日本語教師、日本語の専門家など幅広い人材を育成することを目的とする。
	イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
	ロシア語学科	専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
<b>国際貢献学部</b>		
社会科学の理論と実践の学修をとおして、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的とする。		
	グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、世界の平和に貢献する新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
	グローバル観光学科	世界の平和に貢献する、多文化共生のための活動としての観光という現象の光と影の側面を、社会科学の視点からとらえ、様々なコミュニティが直面する課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

### 【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

<b>前期課程</b>		
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。		
	言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ユーラシア・ラテンアメリカ、東アジア、観光文化研究を軸にした言語・文化・観光の専門的知識や、国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
	実践言語教育コース	創造的でかつ柔軟な対応力を備えた英語教育または日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
<b>後期課程</b>		
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。		
	言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた、言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
	言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。



## 【京都外国語短期大学 学科の目的】

### キャリア英語科

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。

# 目 次

はじめに	1
<b>I.学校法人京都外国語大学事業計画</b>	<b>2</b>
1.基本方針	
2.財政基本方針	
3.重点取組	
<b>II.京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画</b>	<b>4</b>
1.大学・短期大学のビジョン	
2.学長方針	
3.早急に取り組む課題	
4.事業計画	
<b>III.京都外大西高等学校事業計画</b>	<b>9</b>
1.高校のビジョン	
2.方針	
3.最重点取組	
<b>IV.京都外国語専門学校事業計画</b>	<b>12</b>
1.専門学校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
<b>(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的</b>	
.....	14

# 目 次

はじめに	1
<b>I.学校法人京都外国語大学事業計画</b>	<b>2</b>
1.基本方針	
2.財政基本方針	
3.重点取組	
<b>II.京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画</b>	<b>4</b>
1.大学・短期大学のビジョン	
2.学長方針	
3.早急に取り組む課題	
4.事業計画	
<b>III.京都外大西高等学校事業計画</b>	<b>9</b>
1.高校のビジョン	
2.方針	
3.最重点取組	
<b>IV.京都外国語専門学校事業計画</b>	<b>12</b>
1.専門学校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
<b>(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的</b>	
.....	<b>14</b>